

地震時におけるこれまでの推奨行動の分類と整理（案）

地方公共団体等で現在推奨されている「地震時の心得」とそれに関連した「具体的な行動指針」（参考）について目的等で整理し、（Ⅰ）命を守る、（Ⅱ）火を消す、（Ⅲ）デマに惑わされない、（Ⅳ）隣近所で助け合う、の 4 つに分類した。

（Ⅰ）「命を守る」 （P3 図 1 上）

災害を起こす原因である地震等の「HAZARD」、その HAZARD により人間の危険となり得る家具等の「危険因子」、その危険因子が地震動により引き起こす「人が体験する困難な状況」、その状況を回避するための「具体的対応行動」を明確にした上で、行動を行う場所、順序の関係が理解しやすいように配置した。

（Ⅱ）「火を消す」 （P3 図 1 下）

地震が発生した際の火を消すタイミングごとに退避行動を整理した。まず第 1 のタイミングは地震中で、揺れはじめの初期微動時には、「火を消す」または「火を消せと皆で声を掛け合う」、大きく揺れ始めたら「揺れが収まるまで身の安全を確保する」が該当する。ここで、「揺れが収まるまで身の安全を確保する」は（Ⅰ）「命を守る」に準じる。第 2 のタイミングは地震後で、「火を消す」または「避難の際にブレーカを切る」が該当する。このタイミングで火が消せていない場合は、第 3 のタイミングの出火直後で、「直ぐに火を消す」、「火事だと大声で叫ぶ」が該当する。

（Ⅲ）「デマやうわさに惑わされない」 （P3 図 1 下）

概ね地震動が収まった後の対応であり、非常事態によりデマやうわさに惑わされやすくなり、「ラジオや TV 等で正しい情報を入手」、「市役所・消防署・警察署等からの情報に注意」「不要・不急の電話をかけない」が該当する。

（Ⅳ）「近隣の助け合い」 （P3 図 1 下）

概ね地震動が収まった後の対応で、近隣の安全を確認し、救出したり声を掛け合ったり、秩序を守って行動する等、近隣で協力して助け合うというものが該当する。

(参考)【地震時の心得 10ヶ条】(具体的な行動指針は一例)

(1) わが身と家族の身の安全

【具体的な行動指針】 揺れを感じたら、丈夫なテーブルや机の下に隠れ、身を守りましょう。

(2) グラッときたら火の始末、火が出たらすばやく消火

火が出たらすばやく消火しましょう。火の始末が大災害を防ぎます。小さな地震でもすぐ火を消す習慣をつけることが大切です。

(3) あわてて外に飛び出さない

地震が起きたからといって、むやみに外に飛び出すのは危険です。身の安全と火の始末を図った上で周囲の状況をよく確かめて、落ち着いて行動しましょう。

(4) 窓や扉を開けて出口の確保

地震によって建物が歪み、部屋に閉じ込められることがあります。いち早く扉や窓を開けて出口を確保しましょう。

(5) 戸外では頭を保護し危険なものから身をさける

屋外にいるとき地震が起きたら、ブロック塀が倒れたり看板が落ちてきたりします。安全な建物か近くの広い場所へ避難しましょう。

(6) 百貨店・劇場などでは係員の指示に従う

大勢の人が集まる場所ではパニックが起きる心配があります。巻き込まれないように、冷静な行動を心がけましょう。

(7) 自動車は左側に寄せて停車、規制区域では運転禁止

ハンドルをしっかりとつかみ、徐々にスピードを落として車を道路の左側に停めましょう。車を停めたら、カーラジオの情報により行動をとりましょう。車から降りて避難をするときは、車のキーを付けたまま、ドアをロックせずに。

(8) 山崩れ・がけ崩れ・津波に注意

山崩れ・がけ崩れ・津波の危険のある地域ではすばやく避難しましょう。

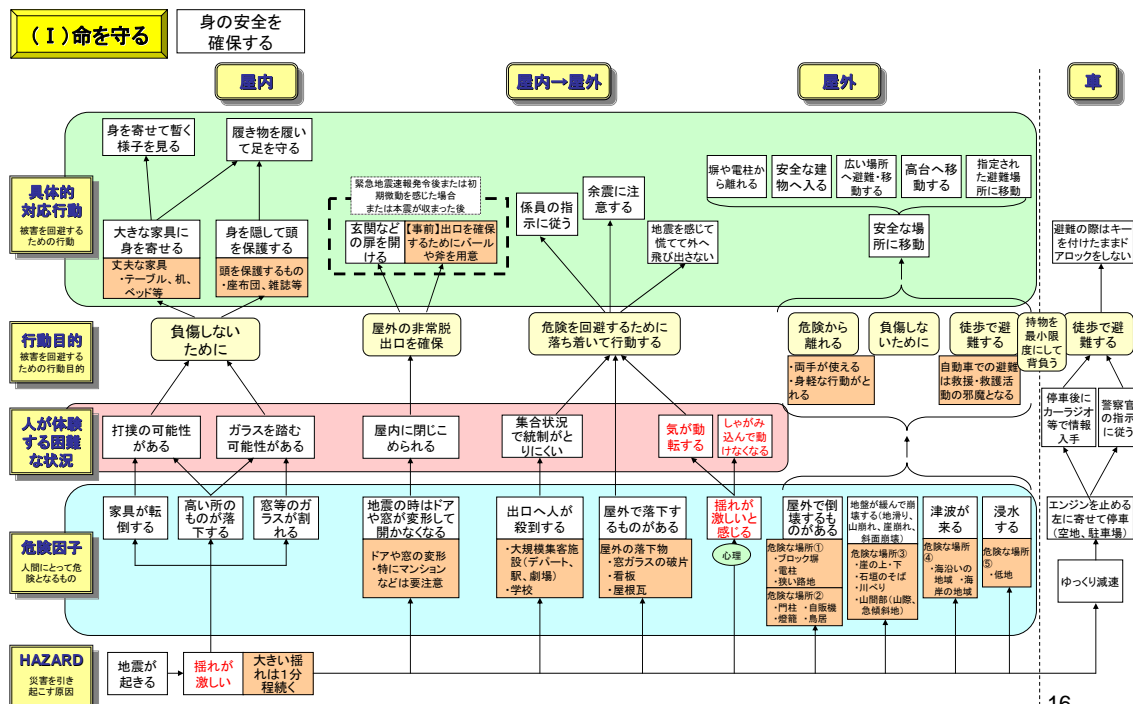
(9) 避難は徒歩で、持ち物は最小限に

自動車を使うと、渋滞を引き起こし、消火活動や救助活動の妨げになります。避難は徒歩で、荷物は必要最小限のものだけにしましょう。

(10) デマで動くな、正しい情報で行動

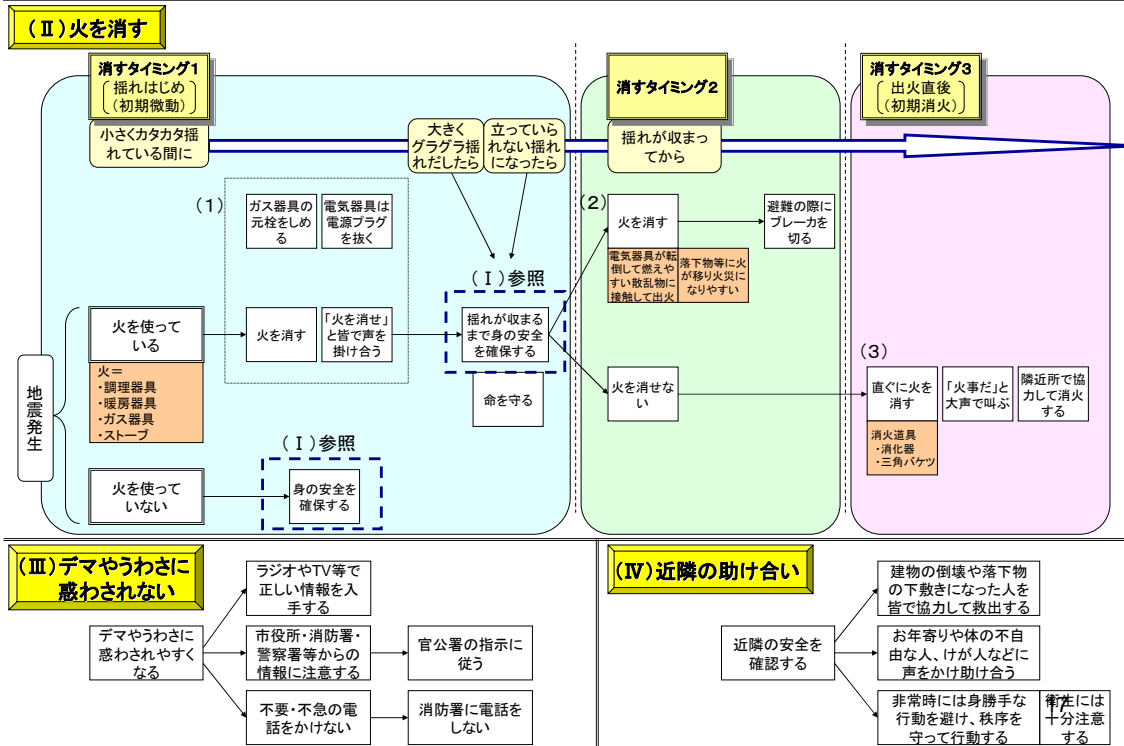
災害時はうわさやデマでパニックに陥りやすくなります。報道機関や市、消防・警察からの情報に注意しましょう。

現在推奨されている退避行動の整理 (I)



16

現在推奨されている退避行動の整理 (II) (III) (IV)



現在推奨されている退避行動の整理図 (図1)